和泉ふたば保育園

保育所における自己評価

A 大変よくできている	C 検討が必要
8 5 %以上	50%
B 良い	D 改善を要する
6 5 %以上	25%

新保育所保育指針で「保育所は保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ園の保育の内容について評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない」ことが明記されています。
よって和泉ふたば保育園では、これに基づき自己評価について公表いたします。

評価日:　　令和８年１月

評価項目	結果	取り組み状況
保育理念・方針	C	園の保育理念、保育目標に関して、しっかりと把握できていない職員もいるので、職員全体で職員会議やミーティングを利用して理解を深めるようにする。
生命の保持・心の安定、健康・安全	B	一人ひとりの発達状況に応じ保育を行うことについては、園全体で共通意識を持ち丁寧な保育を心がけているが、まだ改善すべき部分がある。個別のケースや特別な配慮が必要な子どもの会議等はその都度行なっているが、経過を追えるよう記録・計画等を改善していく。
人との関わり	B	送迎時は、健康面と共に子どもの様子を具体的に伝え、保護者の悩みや不安についても解消に務めた。必要に応じて保護者面談を行いながら、常に子育ての悩みや不安な気持ちに寄り添い支援につながるように努めて。子どもたちが、多様な人とのかかわりができようにしていきたい。
表現活動・言葉	B	子どもが感じたことを自由に表現する機会は作れているが、子どもが作った作品等をたくさんの保護者にみてもらう機会がもてない。毎月決まったものを作って家庭に持ってはいないので、そのことを保護者に周知する必要がある。

次年度へ向けての取り組み

·保育理念、保育目標の再確認と共通意識を図っていく。
·外部の研修だけではなく、園内研修を充実させ、相互に学ぶ機会を持てるようにする。専門的な分野だけではなく、主体的な保育や配慮が必要な子どもについて等、広い知識を得られるよう努めていく。
·できる範囲で、地域との交流、子育て支援を進めて行く。

総評

自己評価を行うことで職員自身が保育の見直しをし、園全体で 保育や運営について改めて考えるきっかけとなった。保育に関しては、一人ひとりに丁寧に対応し、個々の発達に応じて保育をすることは園全体でできていた。また主体性を尊重する保育も行っているが、集団で過ごす中でうまくいかない部分もあった。職員間で話し合いを重ねながら、子どもたちが過ごしやすい環境を整えていきたい。また保護者とも引き続き密に連携を取りながら、保護者も子どもたちも安心して園生活が送れるよう信頼関係を深めていきたい。